

J Rの業務外注化を止めるためのニュースです。感想や意見、現場の情報などをお寄せ下さい。(メール) dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

過去最悪水準の労災死亡

今年度 JR東関連の労災事故で6人犠牲に



J R東日本は11月10日、今年度に発生した「重大な労働災害」を公表しました。触車・墜落・感電事故と交通事故が合計12件、死亡事故は5件5人に上っています。

さらに11月22日には、J R東日本の完全子会社で主に東京圏の駅の清掃業務を請け負う(株)東日本環境アクセスの下請け会社でアルバイトしていた32歳の若者がビル窓の清掃作業中に転落死しました。

今年度の労災死亡者の全員が「協力会社」と呼ばれているJ Rの孫請け会社の労働者です。中小零細企業が多く、劣悪な労働条件・賃金で働かされ、労災死亡でもまともな補償・賠償もなされない状況です。

6人もの労災死亡はJ R発足以来、最多の水準であり、昨年の2倍です。

J R発足以来、2014年7月までの累計で労災死亡者はJ R東日本で168人、J R全体で343人

に上ります。そのうち下請け・孫請け会社の労働者は276人で、J R社員の4倍強です。

労災死亡以外にも負傷事故やヒヤリ・ハットは数限りなく起きています。死亡事故は氷山の一角です。

私鉄の11倍の事故発生率

国土交通省が公表した13年度の輸送障害事故(20分以上の列車遅延や運休)の統計によれば、会社部内に原因がある列車走行100万^キあたりの事故件数は、J R全体で1・92件、大手私鉄15社で0・18件です。J Rは私鉄の約11倍の事故を起こしているのです。

J R東日本が進める業務外注化によって保安費が削減され、安全を破壊しています。J R東日本・東海・西日本の3社は、外注化で人件費を大幅に圧縮し、今年9月期の中間決算では史上最高の利益を上げています。

人件費削減のみならず、外注化は事故責任をJ R幹部が逃れるためのカラクリです。J Rは事故の責任を現場に押しつけ、監督責任を外注先に負わせJ Rには及ばせない仕組みをつくってきたのです。

本来、線路とダイヤをJ Rが一元的に管理しなければ鉄道事業は成り立ちません。

外注化で安全な労働環境を破壊すれば、事故は多発します。